

相模

増刊号

平成27年9月1日

寒川神社社報



大東亜戦争終戦七十年
平和祈念特集

SAGAMI



ご挨拶

寒川神社宮司

利根 康 教

「平和祈念式典」会場にて

「堪へ難キヲ堪へ忍じ難キヲ忍じ以テ萬世ノ爲ニ太平ヲ開カムト欲ス」

昭和二十年八月十五日正午、ラジオから流れる天皇陛下のお言葉。玉音放送に全国民が耳を傾けました。それは、長年続いた大東亜戦争の終結を意味する「終戦の詔書」、陛下と共に全国民が平和を希求し、復興を誓った瞬間でした。

本年、その瞬間より早七十年を迎えます。この節目の年に、平和祈念行事を企画致しましたところ、寒川町仏教会、寒川町を始め関係各位のご協力を頂き、本日ここに「終戦七十年平和祈念式典」を開催できます事に厚く御礼を申し上げます。また、御臨席の皆様にはご多忙中にもかかわらず、斯くも大勢お集まり頂きまして、この場をお借りして衷心より御礼申し上げます。

先立ちまして、寒川神社御本殿にて寒川神社・寒川町仏教会合同で「大東亜戦争終戦七十年平和祈願祭」を滞りなく斎行致しました。宗教の垣根を越えて斎行する初の試みとなりましたが、未来永劫の世界平和を参列者の皆様と共に寒川大明神様に御祈願させて頂きました上に、異なる宗教であっても世界平和を希求する気持ちには些かの相違もない

ということを再認識することができ、宗教者としてこの上ない幸せを感じる所存でございます。

時恰も、七十年前の今日、広島に続き長崎に原子爆弾が投下され、無差別に罪もない多くの市民の命が瞬にして奪われ、その後の人々の人生をも一変させました。我々には、世界唯一の戦争被爆国の国民として、核兵器の非人道性を訴え、廃絶に向けての原動力となる責務があると改めて感じます。

さて、明治二年に明治天皇の思し召しにより創建されました靖國神社には、幕末以降ひたすら「国安かれ」の一念のもと、国を守る為に尊い命を捧げられた二四六万六千余柱の方々の神霊が、身分や勲位・男女の隔てなく全て祖国に殉じられた尊い神霊として等しくお祀りされておりますが、その内大東亜戦争で戦没された英霊は二二三万四千余柱にのぼり、如何に先の大戦が過酷なものであったか



窺えます。

共に戦う仲間と「九段で会おう」という約束を交わし、その命を賭して祖国を守ろうとした多くの若者。靖國神社の資料館である「遊就館」には、本来であれば前途洋々たる未来があったそんな若者の、愛する人々に対する「最期の言葉」が数多く展示されています。そのどれもが、胸を締め付けられるようなものばかりで、拝観させて頂くたび、涙がこみ上げて参ります。

ところが、そのような「最期の言葉」を何度も拝見させて頂く中で、あることに気付くのです。若者たちが「最期の言葉」として遺したその文字が、どれも「様に美しいということ」です。およそ十代・二十代の若者が書いたとは思えない、ましてやそんな年代の若者が自らの死を覚悟した上で書いたとは思えないほど、力強く、微塵の震えもない実に美しい文字で書かれているのです。

現代を生きる同年代の若者が同じ状況下に置かれたとき、果たしてあれほどの字を書くことができるでしょうか。彼らの覚悟と勇気がそして愛国心に心を打たれたとき、我々がすべきは涙を流すことではなく、生かされていることに感謝することであり、彼らが自らの未来を犠牲にして守ろうとしたのは「日本」とい

う国そのものであって、その「日本」の未来であったということを感じるのはです。

そして、「日本」の未来は守られました。若者に限らず、あの時代を生きた全ての日本人のお蔭で、私たちは当時の人々が夢見た未来を生きていくことが出来ています。戦後の塗炭の苦しみの中でも、人々は正に「堪え難きを堪え忍び難きを忍んで」助け合いながら復興に尽力し、我が国はついには世界有数の先進国になるまで成長しました。

戦後七十年が経過し、私たちは偉大な先人たちが遺してくれた当たり前の「平和」の中で生きていくため、得てして感謝することを忘れがちであると感じます。しかし、ほんの数十年前に命を懸けて戦った人々がいたことは決して忘れてはなりませんし、それを後世に伝えていくのは現代を生きる我々の責務でもあります。

終戦七十年を機に、護国の英霊に対し感謝と哀悼の誠を捧げると同時に「美しい国、日本」の国民でいられることをこの上なく誇りに思います。

今ここに改めて、先人たちが築き上げた「平和」を堅持するとともに、後世へ継承する努力を惜しまぬこと、さらには、英霊の御心に恥じぬ生き方を貫くことをお誓い申し上げます。だ簡単ではございますが御挨拶に代えさせて頂きます。

「写真」末社宮山神社境内にある
平和祈念塔「和光」
元 神宮大宮司 坊城俊良 謹書



人類の「恒久平和」を！

「寒川から世界に発信」

寒川町仏教会会長

菊地 英 昭

このたび、終戦七十年を期して相模国一之宮寒川神社本殿に於いて、平和祈願祭を共催させて頂きました。誠に貴重な機会を賜り、感謝申し上げます。寒川町内の神社、寺院の関係各位の皆様が宗教・宗派の違いを越えて一堂に会し、心を一つにして、世界の恒久平和を御祈禱させて頂きました。おそらく、寒川町の長い歴史の中でも、初めての試みではなかろうかと思えます。地球上の、人類の恒久平和の願いが、この日、寒川から全世界に宗教関係者の声として、遍く発信されたのであります。

さて、今回の祈願祭の背景として、寒川神社と町仏教会との「協働」で、毎年秋のお彼岸に催されております、戦没者の慰霊祭の伝統が挙げられます。戦後七十年の復興と発展の礎となられた先人た



平和祈念音魂コンサートに寄せて

寒川町長

木村 俊 雄

昭和二十(一九四五)年八月十五日の終戦から、今年は七十年目を迎えました。残暑厳しい八月は戦争で亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、平和への想いを強く感じる季節でもあります。

この度、寒川神社の終戦七十年平和祈念行事である音魂コンサートに寒川町も協力をさせて頂きました。炎太鼓ユニットによる優美かつ勇壮な和太鼓の演奏と伊藤多喜雄さんの独自の世界感で表現する民謡は、伝統ある古き時代と現代を繋ぎ、先人への鎮魂と平和であることの大切さをあらためて考える機会になったことと思います。

戦争を直接知る世代は少なくなっております。七十年を経て私たちの生活は大きく変わり、今ではとても便利で豊かになりました。しかしながら、未だに世界には核兵器を保有する国が存在し

紛争がおこり、尊い命が日々失われていくことも事実です。本当の豊かさとは何か、平和とは何かを考え、未来を担う次の世代にも平和の尊さを確実に伝え続けていかなければなりません。

寒川町では昭和六十(一九八五)年六月に核兵器廃絶平和都市宣言を行い、今年で三十周年を迎えました。世界の恒久平和実現と核兵器の廃絶を願って、過去の悲惨な経験を生かすことなく、様々な平和推進事業に取り組んでおります。

平和のために私たち一人ひとりができることを考え、まずは身近なところから行動し、力を合わせ力を尽くしていかなければなりません。これからも町民の皆さんとともに、世界の誰もが平和な暮らしを実現できるよう、手を取り合い、歩を進めてまいります。

合掌

平和祈願祭 齋行

平和祈願祭式次第

- 一、参進
- 二、修祓
- 三、国歌「君が代」斉唱
- 四、宮司・式師一拝
- 五、献饌
- 六、宮司祝詞奏上
- 七、大祓詞奏上
- 八、洒水・奠供（音明）
- 九、式師啓白文奉読
- 十、観音経読経・普回向
- 十一、神楽奉奏（浦安四人舞）
- 十二、玉串奉奠（宮司・式師・参列者）
- 十三、撤饌
- 十四、宮司・式師一拝
- 十五、退出



宗教宗派を越えて共に祈りました

- 宮山 龍寶山 興全寺（曹洞宗）
- 霊信山 西善院（真言宗）
- 岡田 大塚山 安楽寺（真言宗）
- 中瀬 窪田山 景観寺（天台宗）
- 倉見 宝積山 行安寺（浄土宗）
- 小谷 東谷山 福泉寺（曹洞宗）
- 一之宮 如日山 妙光寺（日蓮宗）
- 山王山 南泉寺（真言宗）
- 田端 田端山 万部寺（日蓮宗）
- 田端山 醫王院（真言宗）
- 東岳山 生往寺（浄土宗）
- 小動 清浄山 念宗寺（浄土宗）

寒川町仏教会寺院（順不同）



神楽「浦安の舞」が奉奏されました

本年が大東亜戦争終戦七十年の節目を迎えるに当たり、長崎原爆投下の日である八月九日から終戦の十五日までを「平和を祈る週間」と定め、各種行事を実施致しました。

九日午前十時には、最初の行事である「平和祈願祭」が御本殿において寒川町仏教会十二ヶ寺との共催にて神社役員、寺院役員他関係者多数参列のもと、厳肅裡に斎行されました。

時刻には三之鳥居前から宮司以下神職、式師以下僧侶が参進。祓殿にて修祓の後、参列者全員で国歌「君が代」を斉唱。続いて神道式次に仏教式により、それぞれ祈願文が奏上され、神楽奉奏、玉串奉奠へと進み、護国の英霊への慰霊と世界の恒久平和を祈りました。

寒川神社にとって初めてとなる各寺院様との合同祭典ではありましたが、寒川町仏教会の全面的なご賛同を頂き、幾度も打ち合わせを重ねながら斎行できました事で、護国の英霊にも誠が届いたことと存じます。

平和祈念式典挙行

合同平和祈願祭の後、式場を参集殿へ移し「平和祈念式典」が行われました。

式典では、利根宮司の式辞に続き、寒川町仏教会菊地会長、寒川町木村町長、星野衆議院議員からそれぞれ平和に対する熱い願いの籠った挨拶を頂いた後、神楽「榊舞」を奉奏し、更なる平和が祈念されました。

その後直会では、参集殿の総料理長により終戦当時の料理が提供され、当時の食生活を偲びました。

終戦当時の料理を提供して

参集殿総料理長 佐藤 洋

戦中戦後の食糧事情を様々な資料と諸先輩や親からの教えを照らし合わせたところ大変食糧事情が厳しくその日食べる物ですら苦労をしたそうです。

また、輸送手段、冷蔵冷凍技術も昨今に比べ普及しておらず、使用する食材も限りがあり地産地消が主流でした。

そして、飲食業は国の方針によりしばらく営業が出来なかった時期もあったそうです。以上を踏まえて当時の献立を推測し、六つ切り弁当ふうに考案してみました。

あらためて、当時は旬の食材を上手に使い、沿岸地方の方は魚、農村地方の方は野菜をたくみに使用していたと思ひ、大変勉強になりました。



当日提供された弁当



記念ペットボトル



式師以下僧侶による観音経読経



奉仕者全員での大祓詞奏上



祓殿での修祓

終戦七十年

平和「音魂」

おと だま

コンサート

8/9 町民センターにて開催



本年、大東亜戦争終戦七十年を迎えるにあたり、犠牲者の慰霊と追悼を行う各種行事が全国各地で開催されております。

寒川神社では、昭和四十五年より相模薪能を開催。また、平和祈願祭を斎行するなど慰霊と平和祈願を行っておりますが、その精神を引き継ぐと共に、焦土と化し絶望とも思われるような境遇のなかでも、平和で幸せな世の中を作るという一筋の希望を見出し、現在の繁栄をもたらしてくれた人々の尽力に感謝申し上げようと、コンサートを企画致しました。

コンセプトは、①昭和の郷愁を想起させると同時に復興を成し遂げさせた、あの活力を感じさせるものである事。
②「宜シク挙国一家子孫相傳へ」と『終戦の詔勅』にもあるように、先人の思いが後進に伝えられるものである事。
とし平和を希求する願いが音となり、人々の魂に響く様にとタイトルを『音魂（おとだま）』と致しました。

音魂コンサートは、八月九日の午後五時半より、寒川町のご協力も得て、町民センターにて開催されました。
コンサートは二部構成で、前半は女流太鼓チームの炎太鼓ユニットによる演舞で、観覧者はダイナミックなフォーメーションから繰り出される大きな音に魂が呼び起され、リズム良くくしなやかで繊細な技に心が揺り動かされました。
後半は伊藤多喜雄と「TAKIOBAND」による民謡の演奏で、「民謡界のさだまさし」を自称する多喜雄氏の愉快なトークに会場はわれんばかりの笑い声に包まれ、ステージを飛び越え観客席において熱演するバンドのメンバーに大興奮。アンコールの「多喜雄のソーラン節」では会場全員から拍手子が起こり、予定時間を超えての大熱唱に会場は大熱狂となりました。

◀炎太鼓ユニットの熱演▶



◀観客席まで飛び出し演奏するヴァイオリニスト



▲アンコールに応えソーラン節を大合唱



▲熱唱する伊藤多喜雄氏



▲開演5分前客席はほぼ満席となった



第四十六回

「相模薪能」開催

終戦七十年 護国の英霊に捧ぐ



八月十五日、先の大戦にて祖国日本を護るべく戦陣に散り、戦禍に倒れた英霊と戦争犠牲者の御霊をお慰めし、世界の恒久平和を祈念する第四十六回「相模薪能」が本殿前に設けられた特設能舞台にて開催されました。

本年は終戦七十年平和祈念行事の一環としてこの薪能を開催する事となり、能楽師の中森貫太師にお願ひし、終戦七十年に相応しい演目を選曲して頂くと共に、舞踊家の花柳眞理子師により「長唄島の千歳」も披露頂きました。



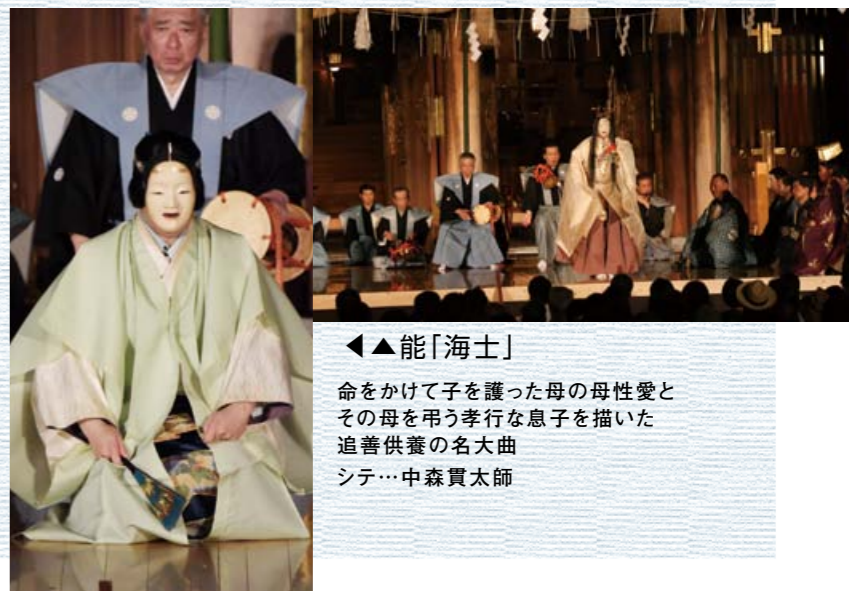
▲能「金札」

御代を鎮め、弓から弦を外し剣を箱に納める事から平和を祈念しています。
シテ…観世喜正師



▲長唄 島の千歳▶

歌詞にある“汲めども汲めども枯れない水”の様に永く永く日本の平和が続くようお願い、舞踊家の花柳眞理子師により舞われました。



◀▲能「海士」

命をかけて子を護った母の母性愛とその母を弔う孝行な息子を描いた追善供養の名大曲
シテ…中森貫太師



▲狂言「箆屑」

おなじみ野村萬齋師による名演技

飾り灯籠こども絵画展



平和祈念行事の一環として、寒川神社少年館の館生による「飾り灯籠こども絵画展」が参道灯籠を舞台に期間中開催されました。神道入門講座で勉強した日本の神話を元に「国生み」「天の岩戸開き」「因幡の白ウサギ」などを題材に元氣よく描きあげました。



一生懸命描きました

夏休みに入り、美術講師の原田暁先生指導のもと、九十数枚にも及ぶ作品を和紙に描き、ラミネート加工を施したうえで、灯籠の火袋にはめ込みました。夕刻、三十四基の灯籠と期間中特別に設置された六十基の雪洞に火が点ると参道は幻想的な雰囲気へと変じ、館生達からも大きな歓声があがりました。七十年前の日本では空襲の被害を少しでも避けようと、灯火管制が行なわれていましたが、館生達が描いた色とりどりの灯籠絵を見て平和の有り難さを改めて感じる機会となりました。



点灯中の神話画

万灯パレード



八月八日午後六時三十分より立正校成会による万灯パレードが奉納されました。



毎年九月二十日の例祭にも奉納されておりますが、この度八月九日〜十日

五日迄の終戦七十年平和祈念週間の諸行事の先駆けの行事として、百四十名余りの会員により賑やかに行われました。こども絵画展で彩られた参道を通り、参拝者に見守られながら進む光景は壮観で平和への祈りが込められたパレードは、観る者すべてを魅了しておりました。





祝祭日には国旗を掲げましょう

【表紙写真説明】
平和祈念週間中
ライトアップされた社殿



後編
編集
後記

終戦直前の昭和天皇が国民を思う大御心や、内閣軍部、それぞれの立場での苦悩や葛藤を中心に描かれた映画「日本のいちばん長い日」が平和祈念行事と時を同じくして公開された。昨年来神社内や仏教会、町役場との打ち合わせを重ね、無事一連の行事を完了することが出来た。担当部署として「いちばん長い夏」が終わり、感慨深い。御助言や御協力を頂いた関係者各位に心から御礼を申し上げます。(前)

【いちいつしんへいつわりなる故宮は、必ず神に託じ、長い結果をもたらす〜】

一之宮 相模國
寒川神社

9月19日[土]・20日[日]

19日…午後1時 宵宮祭 午後2時 流鏝馬神事 20日…午前10時 例祭

<p>9月19日[土]・20日[日] 両日</p> <p>神楽行幸</p> <p>紅茶 観花 観句 盆踊り 祭壇と美石展 奉納演奏</p>	<p>9月19日[土]</p> <p>落語(寒川神社) 寒川神社工務部会 寒川神社事務部 流鏝馬神事 大日本弓馬会</p> <p>9月20日[日]</p> <p>朝庭大会 寒川神社協議会 常設大会 寒川神社協議会 空手道演武 寒川神社協議会 万灯パレード 寒川神社協議会 神輿境内巡行 寒川神社協議会</p> <p>9月19日(土)～20日(日)</p> <p>アニス大会 寒川ロータリークラブ 寒川神社協議会</p>
---	---

寒川神社事務部 ☎0465-754004

9月19日(土)
午後1時 宵宮祭
午後2時 流鏝馬神事
9月20日(日)
午前10時 例祭

『目次』

- 2 ----- 宮司挨拶
- 3 ----- 寒川町仏教会会長挨拶／寒川町町長挨拶
- 4-5 ----- 平和祈願祭斎行／平和祈念式典開催
- 6-7 ----- 音魂コンサート開催
- 8 ----- 第四十六回相模薪能開催
- 9 ----- 灯籠子ども絵画展／万灯パレード実施
- 10-11 ----- 終戦七十年資料展開催
- 12 ----- 例祭案内／編集後記

増刊号 平成二十七年九月一日
発行所・寒川神社社務所
〒253-0195
神奈川県高座郡寒川町宮山三九一六
電話・代表〇四六七(七五)〇〇〇四
編集責任者・前島 正
印刷所・株式会社さんこうどう
<http://www.samukawajinja.jp>